



早稲田大学(教育)



インターTOMAS荻窪スクール

堀 菜々子さん 【光塩女子学院高等科】

堀さんからのMessage

Practice makes perfect!

入会時の課題

英検準1級をめざすうえでリスニングが課題だった。また、ライティングの添削指導を受けられる環境を探していた。

こうやって解決!

リスニングは、間違えた問題を先生と一緒に聞きながら、丁寧な解説を受けて克服。添削指導も受けられる環境になった。

受験DATA

- ・早稲田大学(教育) 合格
- ・中央大学(法) 合格
- ・明治大学(商) 合格

英語資格取得DATA

高3 英検準1級合格

指導のポイント

英検準1級の合格が
生徒に大きな自信を与えた



西村 展和 先生

英検準1級に短期で合格できたことが、その後の受験校を選ぶうえで、本人に大きな自信を与えたと思います。高3の夏からは志望校の英語対策を本格的に始め、9月からは過去問演習を入念に分析しながら行いました。

先生の添削指導を受けながらライティング力を強化

英検準1級を取得したいと考えていた私は、友人のすすめで、高校2年生のときにインターTOMASへの入会を決めました。英検のリスニングが苦手で、入会までに2回不合格になっていました。リスニングのみでなく、ライティングも添削してもらえ人が周りにいなかったの、しっかりと見てもらいたいと思っていたのです。

リスニングは、毎週宿題として同じ問題を3回解いて、3回とも間違えたものは先生と一緒に聞いて解説してもらいました。そうすることで、なぜ聞き取れなかったかを明確に理解し、苦手な音や問題形式の分析をすることができてよかったです。

ライティングは、類似問題をたくさんもらい、毎日1本書くことを目標に決めて、先生にメールで添削してもらいました。自分の文章の癖などを客観的に知ることができ、ライティング力の向上につながりました。し

かし、高3の夏に『早稲田の英語』を解いたとき、思うようにできなかったのが、慰められることが続いたこともあり。その時点で英検準1級に合格していましたが、早稲田の問題に歯が立たなかったの、改めてエンジンをかけることができました。講師からは「常に自分に足りないものを考えていたからこそ、貪欲に課題をこなし、本番に強い力に変えることができた」と振り返っていただき、支えていただいたことに今でも感謝しています。

後輩たちにおすすめの英語勉強法は、長文は時間を計って読み、ただ読むだけでなく、苦手な分野をメモしておくことです。苦手な分野については、単語や内容で理解できないものはインターネットで調べ、情報を頭のなかに入れておくことよいです。それを積み重ねることで、似た分野の長文が出たときに解きやすくなります。